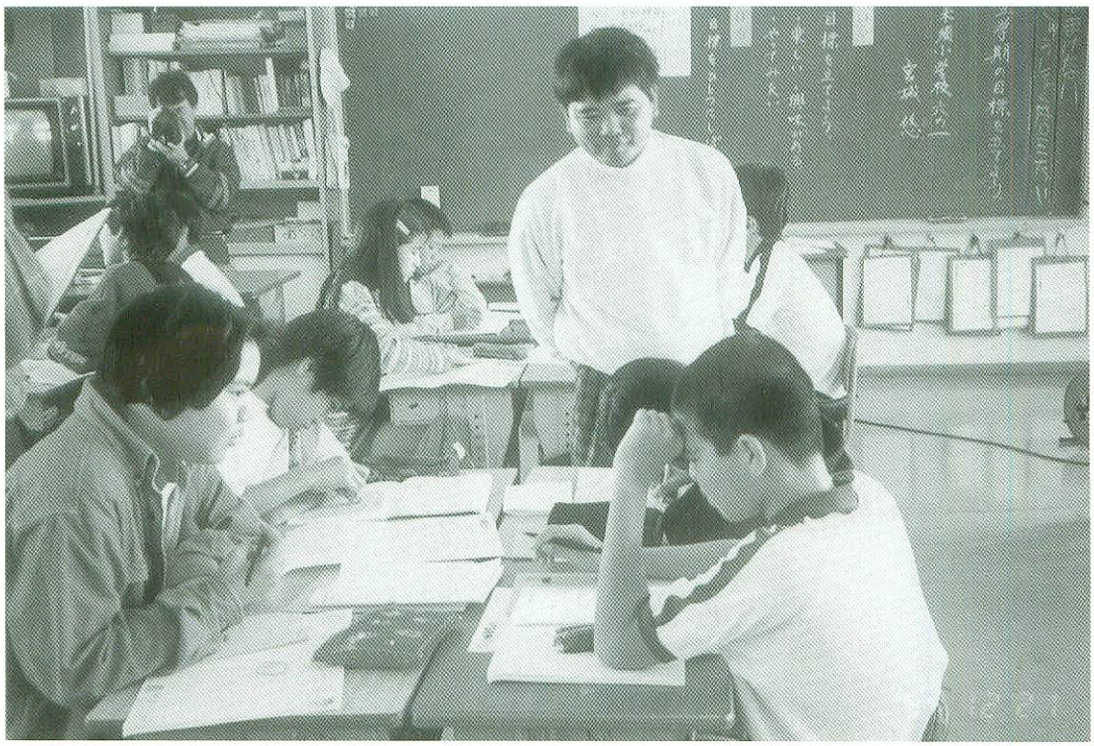
東雲

創刊号　平成７年（1995）３月



南部広域行政組合

島尻教育研究所

目　　次

○ 随　想　一本の琴線 …… 1

○ 研究所所員、島尻教育研究所の組織、指導講師一覧 …… 2

○ 平成６年度教育研究員研究テーマ一覧・平成７年度教育研究員研究テーマ一覧 …… 3

○ 平成７年度事業計画 …… 4

○ 初代指導主事として …… 5

○ 研修を終えて …… 7

○ 平成６年度教育研究員の研究成果 …… 12

○ 開所記念講演（要旨） …… 14

○ 沿　　革 …… 17

（随想）

一　本　の　琴　線

所長　宮　城　恒　彦

教室で授業をする時、教師は普通、前面に固定されている黒板の中央あたりを背にして立つ。この場所からは、児童・生徒（子ども）一人ひとりの顔がよく見えるし、学習に対する反応も十分に観察できる。即ち、子どもの様子が見渡せるポイントに戻り、ちょうど扇の要にあたる所に位置していることになる。

要の字は、こしに両手をあてた形が語源で、こしは人体の中央にあって、体を支える大切な所なので、要を要所、要約、主要などの意に用いていると辞書は解いている。その要所にいる教師を発信の拠点として学習指導は展開されていく。ちょうど扇子をいっぱいに広げるように、全員の子どもたちを１８０度の視野に入れなくてはいけない。この際、要のしめ加減は重要な役目をする。それが余りきついと扇は開きにくいし、また、ゆる過ぎると、しまりが悪くなる。

教師は一学級４０名を定数として子どもたちをあずかり、教育をしている。そして、一人ひとりを伸ばすことを最大の目標として研究実践が積み重ねられてきた。しかし、子どもに対する見方を「Ａ君は私の学級の一人」というふうに考えたり、「Ｂ子さんは４０名の中の一人」と捉えたりしてはいないだろうか。即ち、一人ひとりの子どもを４０分の１の存在のように、分数式に割ってはいないだろうか。もし、そういう思いが心をかすめることがあるとすれば、子どもにかける愛情や熱意の密度が薄れていく危険性をはらんでいる。

立場を変えて、子どもの視点から扇の要にいる教師の姿を眺めてみよう。教師側からは４０本に見える線も、子どもの目からは、たった一本の線である。即ち１分の１であり、私ひとりの先生であり、私の方を向いて話しかけて欲しいと常に望んでいるのである。しかし、現実には、子どもたちのこのような心を読みとるゆとりは少ない。でも、時々、教師は、それぞれの子どもの席に座ってみて、その角度からは自分がどのように映るか、試みてほしい。新しい発見があるかも知れない。

教師と子どもを結ぶ心のかけ橋は言葉である。話しことばを主として心は伝わっていく。だから、教師の話し方の研究もおろそかにはできない。何しろ、毎日、1時間から５、６時間ぐらい、同じ教師から子どもたちは話を聞かされるわけだから、その人間性がにじみ出てくる話し方から受ける感化の影響の大きさを見逃すことはできない。

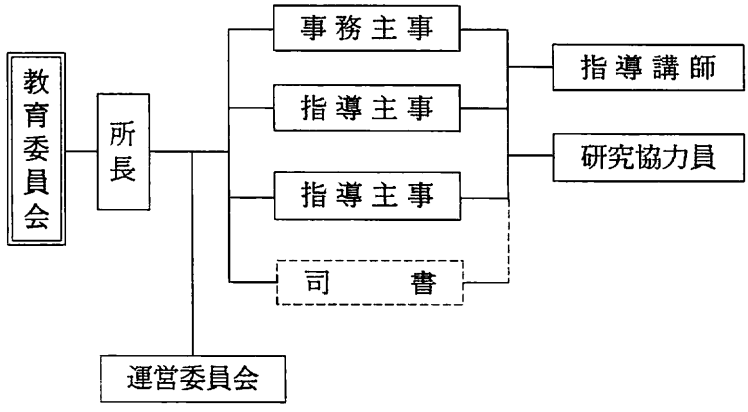
教師との、たった一つの心の通い路である子どもへの１本の琴線が、もし、１週間も切れたままの状態で、子どもが教室に居るとすれば、それこそ不幸なことである。週末の退勤前に、出席簿を取り出して、１週間の中でこの子とどのような接点があったかを点検し、もし、なかったならば、次週での心のつなぎ方を工夫していくことは、教材研究に劣らず豊かな心を育てていく教師の重要な務めの一つであろう。

●組織・機構

1．所　員

職　名	氏　名
所　長	宮　城　恒　彦
指導主事	上　原　幸　得
指導主事	野　原　廣　子
庶　務	仲　地　紀　子

2．組織機構



●平成７年度指導講師一覧

前　期

指導教科等	指導講師	所　属　等
国　語	儀　間　朝　善	知念小学校　校長
	上　原　弘　子	翔南小学校　教頭
学級経営	高　良　清　吉	豊見城村教育委員会指導主事
教育相談（生徒指導）	安次嶺　敏　雄	真壁小学校　教頭
幼稚園教育	名嘉元　美佐子	豊見城幼稚園　教頭
	上　原　須美子	潮平幼稚園　教頭

後　期

指導教科等	指導講師	所　属　等
教育相談（生徒指導）	安次嶺　敏雄	真壁小学校　教頭
道　徳	酒　屋　祐　定	兼城小学校　校長
学級経営	高　良　清　吉	豊見城村教育委員会指導主事
算　数	与那嶺　寿　一	兼城小学校　教頭
国　語	儀　間　朝　善	知念小学校　校長
幼稚園教育	名嘉元　美佐子	豊見城幼稚園　教頭
	名　嘉　峯　子	与那原幼稚園

●研究事業

◎教員の資質の向上や地域の教育力の向上を図るため次の研修事業を行う。

(1)　長期教育研究員

管内、幼、小、中学校教諭（年間14人）が前期、後期に分かれ、６ヵ月間にわたり入所、ぞれぞれの教科、領域のテーマで研究を行う。

研究の成果は報告会を開催し、報告書にまとめる。

◎前　期　　４月１日～９月30日　幼２、小４人、中１人（計７人）

◎後　期　　10月１日～３月31日　幼２、小４人、中１人（計７人）

(2)　教育課題実践講座

島尻管内、幼、小、中学校教諭を対象に、より身近で実践的な課題をテーマに研究会を開催する。

(3)　教育文化講演会

地域住民、教育関係者を対象に教育的、文化的テーマで講演会を開催する。

平成6年度教育研究員一覧

島尻教育研究所

学校名	氏名	研究領域	研究テーマ
豊見城村立 上田小学校	新垣忠是	教育相談	・問題行動傾向児の自己指導能力育成の試み －部活動における自己概念の変容を通して－
豊見城村立 上田小学校	小野寺清子	生活科	・生活科における年間計画の工夫 －地域素材の教材化を通して－
糸満市立 真壁小学校	神村逸子	道徳	・道徳の時間における個を生かす指導 －実態把握のあり方と意図的指名を通して－
糸満市立 米須小学校	諸見謝弘	学級経営	・やる気を育てる学級経営 －個人目標の認知、実践、定着化を通して－
南風原町立 北丘小学校	荷川取千賀子	算数	・個を生かす学習指導の工夫 －算数科におけるティーム・ティーチングを通して－
豊見城村立 長嶺中学校	野村朝昭	国語	・生徒一人一人の自己教育力を育てるための授業の創造 －説明的文章における課題解決学習を通して－

平成7年度入所予定教育研究員一覧

期	数	勤務校	氏名	研究領域	研究テーマ（予定）
前期	1	糸満市立 糸満南幼稚園	佐久間美佐子	総合教育 生活	1.幼稚園生活においての望ましい統合保育の在り方 2.幼児が充実した幼稚園生活を展開するにはどうすればよいか
	2	豊見城村立 上田幼稚園	富田佐代子	表現	幼児の豊かな表現意欲を育てるための援助の工夫 －劇的な活動を通して－
	3	糸満市立 光洋小学校	賀数五十美	国語科	一人一人が意欲的に取り組む音声言語指導 －自分の言葉で率直に話せる児童をめざして－
	4	与那原町立 与那原小学校	金城考代	学級経営	自己教育力を育てる学級経営 －児童特性を生かす係活動の工夫を通して－
	5	大里村立 大里南小学校	川崎佳子	国語科	個に応じた国語学習の指導法 －書く喜びを持たせる作文指導の工夫－
	6	南風原町立 北丘小学校	古波津久美子	教育相談	一人一人を生かす教育相談 －学級集団に於けるグループカウンセリングを通して－
	7	具志頭村立 具志頭中学校	山田宏	教育相談	生徒の自己教育力を高めるために教師はどうかかわるべきか。
後期	1	糸満市立 米須幼稚園	又吉ノリ子	幼稚園教育	幼児の思いに添って幼児と共に創る保育 －真に求められる教師の援助のあり方を求めて－
	2	豊見城村立 豊見城幼稚園	與那嶺多喜子	幼稚園教育	幼児が聞く、話す、楽しさや喜びを味わうようになるには、環境をどのように構成すればよいか。
	3	豊見城村立 伊良波小学校	平田清美	国語科	新しい学力観に立つ国語科授業の創造について －個に応じた指導のために－
	4	糸満市立 兼城小学校	亀川盛敏	算数科	自ら学ぶ意欲を育てる学習指導の工夫 －算数の問題解決学習を通して－
	5	糸満市立 兼城小学校	新城栄子	道徳	道徳的実践力を育てるための授業の工夫 －体験学習と授業実践を通して－
	6	糸満市立 真壁小学校	仲村克美	学級経営	楽しく潤いのある学級づくりを目指して －音楽、歌声、身体表現で深める人間関係づくりを中心に－
	7	玉城村立 玉城中学校	井上律子	特別活動	カウンセリングマインドを生かした学級経営

平成７年度　事　業　計　画

島尻教育研究所

期	月	事業予定		
		主事等	研究員	運営委員・指導講師等・管内教員
前期	4	表敬訪問（教育庁、教育センター等） 講話（所長、上原、野原） 沖教連・九教連・全教連会費送付	平成７年度　前期研究員入所式 （幼稚園２人、小、中学校５人） 研究計画検討会	運営委員会（第１回） 指導講師連絡会（第１回） 研究協力員連絡会（第１回）
	5	全県指導主事会（上原、野原参加） 表敬訪問（管理者等） 島尻地区指導主事研究会	中間検討会 所外研修（前期第１回）	指導講師による指導 （第２回）
	6	講話（所長、上原、野原） 全教連研究大会参加（新潟、上原） 講話（所長、上原、野原） 沖縄県教育研究所連盟研究会・総会	検証事業 （研究員各１回、計７回） 所内研修	指導講師指導（第３回） 教育講演会
	7	行政視察（熊本）、全教連研究大会 （熊本県立教育センター） 参加：教育委員、所長、教育総務課長、指導主事	所外研究（前期第２回）	講話 （指導講師各１回、計７回）
	8	講話（所長、上原、野原）	研究のまとめ（原稿の入稿）	指導講師指導（第４回）
	9	前期所報作成、印刷、発送 研究集録作成印刷、発送 平成８年度教育研究員募集要項発送	前期研究発表会 前期教育研究修了式 所外研修（前期第３回）	指導講師指導（第５回） 運営委員会（第２回）
後期	10	所長講話 主事の講話（服務等、野原、上原） 全教連研究大会（群馬、野原） 平成８年度教育研究員応募締め切り	平成７年度後期入所式 （幼稚園２人、小、中学校５人） 研究計画検討会	指導講師連絡会 （前期第１回） 指導講師による指導 （第２回）
	11	沖縄県教育研究所連盟発表会 平成８年度教育研究員決定 講話（所長、上原、野原）	所外研修（前期第１回） 中間検討会	教育講演会 指導講師による指導 （第３回）
	12	全教連研究大会参加 （国立教育研究所、所長）（学校経営、教育研究員に関する研究発表） 講話（所長、上原、野原） 御用納め（すす払い、年末大掃除） 講話（所長、上原、野原）	所外研修（研究報告書のまとめ） 検証事業（各研究員）	教育課題解決のための実践発表会 （授業実践、評価、教育課程編成）
	1	御用始め 年頭表敬（県教育庁、関係機関） 沖縄県指導主事研修会（上原、野原） 講話（所長、上原、野原）	書き初め会（研究員） 所外研修（前期第２回） 所内研修（指導講師による） 研究のまとめ	講話（各指導講師による）
	2	講話（所長、上原、野原） 所報作成、印刷 研究集録作成、印刷	研究のまとめ（原稿の入稿）	指導講師による指導 （第４回）
	3	講話（所長、上原、野原） 平成７年度研究集録発送（管外） 平成７年度後期所報発送 平成８年度計画作成	後期研究発表会 所外研究（第３回） 後期教育研究修了式	指導講師による指導（第５回） 指導講師連絡会（年間の反省） 運営委員会（３回）

初代指導主事として

良い教育研究所づくりを胸に秘め……

指導主事　野　原　廣　子

平成６年度島尻教育研究所開設と共に初代指導主事として採用されましたことを身にあまる光栄に存じますと共に、関係各位に対しまして心からの感謝を申し上げます。

浅学非才の者が大任を与えられましたことに責任の重さを痛感致しております。ご期待に添うことができますよう精いっぱい頑張らせていただく覚悟で着任致しました。

尊敬申し上げる前島尻教育事務所所長宮城恒彦先生を所長にいただき、糸満市教育委員会の指導主事として３年間勤めて来られた行政経験豊かな上原幸得先生と共に指導主事として働かせていただくことに心強さを感じております。

「所長他指導主事２人庶務１人」というささやかな所帯での島尻教育研究所の出発でございますが、所長の指し示す方向に２人でチームワークをしっかりと組みつつ精いっぱい努力しております。島尻地域の良き教師を育て、あるいは共に育ちつつ、島尻の教育のレベルアップに創意工夫を重ねております。

研究活動の命ともいえる資料の収集にまず、全力をあげました。限られた予算のなかでの資料の収集は思うに任せず、島尻地域、県内は勿論、全国の関係機関、各種出版会社等への資料の提供依頼、協力要請、本地区の先輩教師の方々にもお力添えをお願い致しました。各学校に出向いての資料の提供お願い、収集もさせていただきました。他の学校、研究所の資料倉庫に入っての資料探し、運び出しなど、まさに担ぎ屋的な肉体労働も厭わず精一杯やりました。

「良い島尻教育研究所づくりを！」の意気込みをそれぞれ胸に秘め、疲れも感ずる事なく喜びにみちていました。

部屋の仕切りさえもない大広間にぽつんとテーブルが２つおかれているだけの島尻教育研究所のスタート。その大広間にみるみる各学校、県内の各研究所、各出版社、先輩教師の方々からの寄贈の図書が山のように積まれ、みなさまがお寄せくださるご厚意に唯々感謝で「一層頑張らなくちゃ。」の気持ちを強く致しました。資料の仕分け、分類に追われる日々が続きました。東風平小学校・東風平中学校の生徒の手もお借り致しました。本当に多くの方々のご理解ご協力がなければ何事もできません。

あらゆる困難な状況も南部振興会の管理者であられる上原宜成糸満市長、関係各市町村長、南部広域行政組合教育委員会の津嘉山清教育長初め各教育委員のご理解あられるお力添え、新田宜徳局長、玉寄長市教育総務課長の献身的なご配慮、ご労苦をいただき一つ一つ課題が解決されて参りました。

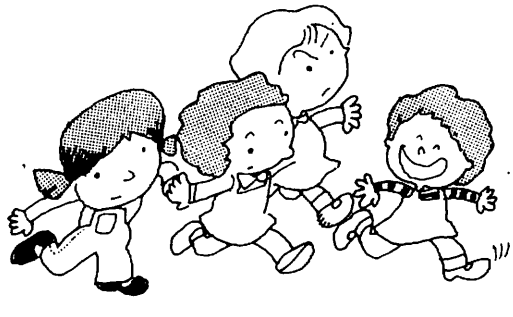
平成６年10月３日開所式・入所式の喜びの日を迎える事ができました。ホールいっぱいの人、人、人。どの顔も長年待ち望んだ島尻教育研究所開所の喜びに満ちておりました。「人を信頼することの大切さ」、「誠心誠意打ち込むことで、きっと道が開けてくること」を身をもって学ばせていただきました。

第一期生の入所にこぎつける事ができた喜びはたとえようもありません。周りの方々のお力添えに唯々感謝したい思いで胸がいっぱいになりました。諸先生方、ご協力くださいました方々本当にありがとうご

ざいます。

堂々とした頼もしい限りの第一期の研究員の先生方が各学校から入所して来られました。いよいよわたし自身の勉強不足を試されるとき。取り急ぎあれもこれも知識をかき入れなくちゃと思いつつ、対外的な処理事項、事務処理事項に追われ勉強もままならない状況のなかで気も焦るばかりでした。指導の応援を島尻地域の大先輩方を講師としてご依頼しつつも、研究員への良き指導ができますよう一生懸命勉強させていただいております。

半年の研究という限られた期間内で多くのみのりをとの思いで研究員ともども頑張っています。「仕上げ」としての研究報告書を読ませていただくにつけ、各研究員の努力が手にとるように分かります。それと共にまじめで優秀な先生方を研究員として送っていただきました各学校の校長先生方のご協力に心からの感謝を申し上げます。素晴らしい研究報告書が出来上がり、各研究員の先生方を誇りたい気持ちでいっぱいでございます。指導講師の先生方、運営委員の方々、いろいろご配慮くださいました多くの方々本当にありがとうございました。わたし自身力量不足のものでございますが、島尻の子供達のため、よき教師の育成のため、わたし自身教師の一人として成長するためにも、一層、精進をさせていただく所存でございます。今後ともご指導ご鞭撻の程を宜しくお願い申し上げます。



研　修　を　終　え　て

上田小学校　新　垣　忠　是

私の席は、窓に向かっている。顔を上げれば、いつでも八重瀬岳と与座岳の低い連なりが見える。緩やかな稜線が、窓いっぱいに長く伸びていることから、東風平の田舎町が低い丘に囲まれているのが分かる。

今の時期（２月下旬）は、霞のかかる日がほとんどだ。曇りガラスをフィルターにしたようなピント外れの風景になる。今日も霞の濃い、じわーっと沈んだ風景だ。遠くの低い稜線が白くけぶっている。でも、そんな重い空気は嫌いではない。気ぜわしくワープロを叩かなくて済むような、ゆっくり考えていいような、疲れたら黙って座っていてもいいような、なぜかそんな悠長な気分になれるからである。

学校現場では、一日中気の抜ける時間がない。次々にやるべき事が待ってるか、起こってくるかである。授業は勿論のこととして宿題や日記の点検、係活動、委員会活動、職員会議、校内研修会、学年会、翌日の教材研究、教材教具の準備、放課後の部活動のほかに、個々の子ども達から持ち込まれてくる大小様々の問題への対応……。自分にゆとりがなく、周りが見えなくなってくることがほとんどだと思う。子ども達からの小さなサイン（目つきや表情）を見落としたり、重要な問題を据え置きにしたりしていることも多いに違いない。

それでも、今回のテーマ「問題行動傾向児の自己指導能力育成の試み」には、いつか時間をかけてこだわってみたいと思っていた。アウトサイドに行きかけている彼ら（問題行動傾向児）の内面や背景を知りたいという思いが強かったのである。ある意味では、自分にないものが彼らにあるような気がしていたからかも知れない。

私は、自分を組織への順応性が強いと思っている。その分、自分の主張がないとも思っているわけである。彼らは、少なくとも彼らの方法で自分を主張しているはずだ。その“個の主張”に対して単に権威による“組織への順応”の強要のみで問題解決を図りたくなかった。それで、６ヵ月という猶予を与えてもらったつもりでいる。

「これでいい」という速効薬が見つかったわけではないが、与えられた時間を有効に使うことができたように思う。早く現場に戻って、子ども達の多様性に、私なりにぶつかって奮闘してみたい、そんなエネルギーを蓄えることができたような気がする。ただ、現場に戻ると、壁にぶつかったとき、八重瀬岳を眺めながらのんびりと構えることのできないのが残念である。

研究を進めるにあたり、宮城所長をはじめ、野原・上原両指導主事には陰に陽に私の研究を支えてもらった。安次嶺真壁小学校教頭には、直接研究に対する助言や示唆を賜ったばかりでなく、“教育相談”に関する基本的な考え方を教えていただいた。また、上田小学校の仲本校長と又吉教頭には諸々の便宜を図っていただき、同小の６年担任には調査等への多大な援助を賜った。このように多くの方々の援助なしには、私の研究の完遂はなかったと考えている。衷心より感謝の念でいっぱいである。

「一期一会」・出会いの中から

長嶺中学校教諭　野　村　朝　昭

「三人行けば必ず吾師あり」

6ヵ月の研修が終わり、今、その言葉の意味をかみしめる。『所長、両主事、6人の研究員と素晴らしい方々に助けられてここまできたのだなあ。』としみじみ思う。そんな感謝の気持ちと共に、この半年間本当にいろいろなことがあったことを想い出す。

研究員日誌から心に残った言葉を書き抜いておく。

10月3日　M・H　「研究所初日、期待感、責任感、様々な想いが入り混じった一日でした。一言『疲れました！』」（緊張感で）

11月18日　N・T　「昨日のデータ消去の一件より、諸見謝先生が話題を提供しました。今の時代、機械（手段）に振り回されて目的を忘れがちになる。だからこそ教師は『心』を大事にすることを教えなければいけないという教師の在り方について話題が広がりました。ちょっとしたハプニングがお互いの生き方、人間性という深いところまで意見を交換することができて、楽しいミーティングができました。」

12月1日　K・I　「今日から12月。月が変わると気持ちまで変わる。気持ちが引き締まる思いがする。その気持ちを持続させて研究を進めていこう。県教育センターで研修されている方から、じっくり研究ができる島尻教育研究所がうらやましいと感想を述べられていた。恵まれた条件の下、納得の行く研究のできる身、その機会を与えられたことに感謝し、研究をしていきたい。」

12月13日　S・T　「小野寺先生の検証授業だった。生活化の授業を見るのは、ほとんどの研究員が初めてだ。授業の準備が大変だったと思う。石うす、もち粉、まな板、ボールなど……。子ども達は生き生きと世界に一つしかない自分のムーチーを作っていた。子ども達の生きる力のようなものを感じた。早く学校に戻って、そんな実践を自分もやってみたくなる。小野寺先生ご苦労様でした。」

1月4日　N・T　今日は輝かしい1995年度、平成7年の幕開けであった。久しぶりに見るみんなの顔は、晴れ晴れと明るい。所長から思いがけないお年玉（落款）を頂き、とてもうれしかった。素晴らしい一年を予感させる一日だった。」

2月21日　O・K　「明日の報告書検討会を前にして、何かに操られたように机にかじりついて、パチパチ……ギィギィー、原稿読みの練習をする人、様々な人間模様である。『あーあー』と何度ため息をついたことか。追う身になってやりたいが、追われっぱなしの逃亡者稼業。ワープロとの悪戦苦闘で、この一週間は時間も惜しい日々だった。いよいよ、最終ラウンド、頑張るのみ。」

この半年間の研究の成果を生かして頑張っていこう　再開の日を楽しみに……。

研　修　を　終　え　て

米須小学校　諸見謝　　弘

入所式から早５ヵ月、振り返るといろいろな出会いがありました。

所長の厳しさの中にも暖かみのある御指導、幸徳先生の何事にもまじめに取り組む姿勢、廣子先生の人を思いやる心、高良先生はじめ指導主事の先生方の励ましと、とてもためになる講話、玉寄課長他、南部振興会の皆様の温かい心遣い。どれをとっても私の一生の思い出に残る人との出会いでした。

そして、何よりも忘れてならないのが、５人の仲間たち、男３人、女３人、年齢も20代から40代、個性豊かなすばらしい仲間たち。共に笑い、共に悩み、共に学んだこの半年の経験は、私の一生の宝物です。研修の機会を与えてくださった方々、校長先生はじめ米須小学校の職員の皆様にも心より感謝します。

入所式の日、自分の研究というほどのものができるだろうかと不安になっているところへ、所長の「リフレッシュのつもりで」の言葉、少しは緊張感がほぐれたかなと思う間もなく、テーマ設定の検討会、そこでおもいっきりもまれたことが今思えばとても後のためになったと思います。そのときも、自分が落ち込んでいるのではないかと皆で励ましてくれました。もし、あの時あいまいなまま研究を進めていれば、まとめあげることができなかったかもしれません。研究の方向を決めることの大切さを痛感させられました。

それから、研究員同志のディスカッションもとてもためになりました。昼の仲間との語らいも楽しいものでしたが、夜の部での研修も昼間とは違った顔を見ることができとても楽しいものでした。特に男３人の研修は、哲学的な話から身を乗り出して聞き入る話までいろいろなものでした。本当に充実した半年間でした。これからは、研究所で学んだことを現場で生かし、よりいっそう教職生活に励んでいきたいと思います。

新たなスタートへ向けて

北丘小学校教諭　荷川取　千賀子

「この半年は研究を完成させることだけではなく、これまでの自分を振り返り新たなスタートとするための時間にしてください。」所長のこの言葉は、入所への不安を胸に抱えていた私にとって、大きな励ましになりました。そんな中、始まった研究生活。最初の１ヵ月はどう研究を進めていくのかよく分からず、焦る日々が続きました。でも、そんな私に声をかけ、時には笑いを与えてくれた先生方のおかげで今日まで頑張ることができました。ぞれぞれ教科は違いましたが、６人の結束力は固く、またとても個性的で、私に大きな刺激を与えてくれました。「３人行けば我が師在り」の言葉どおり、５人の仲間はこれからの教員生活で私の大きな支えになると思います。でも、楽しいことばかりではなく、研究や３分間スピーチでの発表等、これまで経験がなかったので時には自己嫌悪に陥ることもありました。しかし、討論の時「一つのテーマからいろいろな考え、話題に広がるんだな。」という驚きを感じ、先生方の知識の深さと熱意に圧倒されることも度々でした。まだまだ未熟な私ですが、ここでの経験が新たな自分をつくっていくことと思います。

最後に宮城所長をはじめ、野原・上原両主事、担当の与那嶺先生、研究員の先生方にはいろいろ御指導をして頂き、心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

研修を終えて今……

真壁小学校　神　村　逸　子

島尻教育研究所が産声をあげて半年、当研究所は、万全の体制で私達を温かく迎え入れてくれた。平成６年10月３日のことである。すべてが新しずくめの中、緊張した面持ちの裏に自らの研究に思いを寄せてのスタートであった。その日、私達６人の研究生に「一期生」という語が載冠された。

以降、事あるごとに「○○の一期生」がついて回った。「栄ある一期生」と形容され、一期生の成すこと即ち伝統なり」が公式非公式の場で連発さける頃、いよいよ研修生らしくなったことを思い出す。「栄ある一期生」として、私自身はどうであったか。

当研究所の宮城所長は、入所時の私達に「自己変容を期待する」という趣旨の激励のお話をされた。その後『３人行必有我師』すなわち、自分を含めた３人で、何か事を行えば、相手の２人が、良い者であれ、悪い者であれ、何らかの点で自分の師となることがあるの意を、当研究所のモットーとした。

この半年、常に私の脳裏に見え隠れした７文字。私自身が、所長、主事の先生、南部振興会の職員、他の研究生から学ばせてもらったものは大きい。教職10年目の節目に、教師として、人間として、自分自身を見直す絶好の機会に恵まれた事に対し感謝でいっぱいである。

トックリキワタの芽ぶきを前にして

上田小学校　小野寺　清　子

「おはようございます」研究所でかわすあいさつが、心をピリピリとひきしめました。朝の掃き掃除をしながらの井戸端会議は、子育てから政治の話まで多種多様な内容で白熱するときもあり、研究よりはその方に魅力を感じることもありました。教師はとかく視野が狭く話題に乏しいと言われます。そのことを払拭するかのように、いわゆる教員でない南部振興会との打ち解けた交流が、新鮮さを感じると共に研修のつらさを吹き飛ばしてくれました。

オリエンテーションで感じた緊張感をいだきながらも希望を持ちつつ入所した当初を思い出します。ときには、きたことを間違っていたのではないかと疑心暗鬼に陥いることもありました。そんなときの所長さんをはじめ指導主事、指導講師からの教示は、私の気を取り直させてくれました。

現場を離れて研修する機会を得てはじめてこれまでの実践において反省させられることが多いことを知り、教育者としてのプロ意識とはなんぞやと問う日々でした。朝のミーティングでは、嫌が応でも常に自己鍛練の場であり、研究員の教育最前線でのニュースキャスターなみの名調子には印象深いひとこまでした。仕事を続ける上で、自分というのは教育者、母、妻、嫁、女としての５つの顔をどう使い分けるかも改めて考えました。

個性あふれた研修員の方々に支えられ、教育に対する情熱、真剣さ、専門性を教えられ、人生の楽しみ方も味わうことができました。休憩時間は駄酒落を連発し遊びとなることがほとんどでした。我ら一期生ここにありと、弾き出された玉のごとく自己教育力旺盛な方々の集団で実践力と臨機応変的な行動力はすばらしかったです。このユニークな方々の出会いは一生の宝です。

身の程知らずで多くの方々に迷惑をかけたことをお許し下さい。これからも「井の中の蛙大海を知らず」にならないように研鑽して行きたい思います。この６ヵ月間、所長さんをはじめ、指導主事、担当の上原弘子先生に親身に指導してもらい本当にありがとうございました。

平成６年度教育研究員の研究成果

指導主事　上　原　幸　得

はじめに個人個人の研究内容の成果について要約して述べ、後段で全員に共通した成果を記す。

新垣忠是先生（上田小学校）の研究　――― **独創性**に富んだ研究

独創性の程度によって、論文の価値が決まるといわれている。特に問題行動傾向児を部活動という集団指導の過程において、教育相談的手法を用いて理論的に体系化し研究し指導を生かした点で、他にはない独自の研究として評価が高い。児童の自己評価から問題行動傾向児と統制群の児童の自己概念と比較を考察することで指導の方向性を見いだし、実践に結びつけた点でも新しい実践方法として興味深い。

小野寺清子先生（上田小学校）の研究　――― **実用性**に富んだ研究

生活科において地域の特性を生かした教材を選定することが重要だと言われている。足しげく校区内の地域に出向いて、地域の文化・産業の教材化、制作教材の教材研究を行い。また、人材リスト、生活科マップ、生活科暦等々を作成、それを年間計画に位置づけることに心がけた。自校の生活科の実践資料として、また、他の学校の参考資料して実用性に富んだ研究である。

神村逸子先生（真壁小学校）の研究　――― **人格性**に培われた研究

教師の発問の適否が道徳の時間の正否を決定すると言われている。ふだん学級において児童に接する時の神村先生の姿勢からまた、研究論文全体から子供に対するひたむきな愛情が伝わってくる。意図的指名の場面における先生の発問に顕著にそれが表れている。教育に対する誠実さが伝わってくる人格がにじみでた研究である。

諸見謝弘先生（米須小学校）の研究　――― **科学性**に富んだ研究

研究内容の全体構想から研究の筋道を立てて研究に臨んでおり、全体と部分、基本的概念と要素、それぞれの関係が明白である。科学論文に限らず教育論文においても、純粋に客観的でなければならない。目標実践と原因帰属の関係を客観的に分析した事や、手段的活用の測定を数量的に分析したことは実証的で科学性に富んだ研究として価値が高い。

荷川取千賀子先生（北丘小学校）の研究　――― **発展性**のある研究

個を生かす学習方法を習熟度別指導形態としての一形態として完結できた優れた研究である。特に、多角的に児童の実態を調べコース別に個々に適した指導を実践してきた。そのことで、児童一人一人が意欲を持って学習に取り組むことができた点で大きな成果を得ることができた。各学校現場においてもＴＴ学習は緒についたばかりで、今後、おおいに実践され、発展が期待できる研究である。

野村朝昭先生（長嶺中学校）の研究 ――― 課題性のある研究

課題性とは教育的に見て価値があり、意味があるということである。現時点で必要であり、将来を見通した研究であるということである。昨今授業の工夫改善が叫ばれているが、単元に最も適した授業方法をとりいれることが教師の課された責務である。野村先生の実践から、適した場面において、課題解決学習をとりいれることにより、生徒個々人の主体的な学習態度が身につき、自己教育力が育つことが実証できた。

独創性、実用性、人格性、 科学性、発展性、課題性は教育論文に兼ね備えなければならない一般的条件と言われている。研究員一人一人の研究報告書の随所に、それらの条件は網羅されているが、特に要約して記した。次に、6人全員の研究内容に共通した成果として7点を記す。

1．各研究ともそれぞれが時宜にあった教育研究である。新しい学力観に適したテーマを設定し、常にそれを指標に研究に取り組んだ。
2．各研究員が、常日頃課題としていることをテーマに研究に取り組んだ、またこれは現場の最も必要としてる研究でもあり、今後の実践が期待できるテーマでもある。
3．研究を進める上で各自仮説を設定したことは、研究の方向づけがはっきりし、研究の指針として有効であった。
4．各研究員がそれぞれに、児童生徒の実態をよく把握し研究に臨んだ、日頃の観察記録はもちろん、自作アンケート、自作レディネステスト、知能検査、標準学力検査、道徳性検査、自己教育力指導検査等々多様な方向からの実態把握を研究に生かした。
5．各研究員とも、足しげく学校に通い検証授業、検証実践を行った。それをもとに指導案の修正や研究方法の修正に生かした。またこれは仮説の検証にも有効であった。つまり理論研究のみにとどまるのではなく、実践に裏打ちされた研究である。
6．各研究員とも、実践後の児童生徒の変容を研究内容に適したデーターをもとに分析したことは、仮説の客観的な検証として有効であった。またそれは、各研究の成果を裏付ける資料としても有効であった。
7．各研究員とも、研究の成果については児童生徒の実態把握や授業実践からのデーターを処理分析し考察し客観的にまとめあげることができた。また今後の課題については研究の成果をもとに発展的に考察することができた点でよかった。

紙面の都合で、要約した内容になっているが、特に大きな成果とて、研究員相互に各々のテーマについて、研究方法について、データー処理について、結果について、絶えず討論し深めあってきたことをつけ加えたい。またそのことは、教育研究の意義について、各々が深く考える素地にもなった。

個性豊かで、子供に対する愛情、教育に対する深い情熱を持った6名の先生方でした。今後の現場での更なる活躍を期待いたします。

開所記念講演（要旨）

演題「子どもの学ぶ意欲を育てる学習評価の改善」

応用教育研究所所長
辰野千壽

子どもは生まれながらにして学習意欲をもっている。だから放っていても学習するというけれど、放っていては国民として必要な基礎的知識技能を身につけることはできない。親や教師が外部から勉強の動機付けをしてやらなければならない。

その方法として第一に、学習目標を具体化してやることである。時間を決めて、どういうふうに、どこまで、と目標を具体化してやることが学習習慣をつける上で大事である。第二に、学習の結果を知らせる事である。本人が期待した結果が得られれば満足してさらに学習しようという意欲が湧いて来るし、その反対であれば教師が前向きの指導をしてやることができる。外国の研究結果によるとテストの答案を返すとき、それぞれの子どもに即した短いコメントを個別に与えて返した方が学習意欲が高まり、学習成果も上がり、成績もよかった。その次にいいのは点数に加えて型にはまったコメントでも良いからつけて返してやること、一番悪いのは、点数だけで返した場合であった。

３つ目にその子どもにあった適度の不安を与えて、学習への動機づけを図ることである。能力のある子どもはかなり高い不安を与えてもそれを乗り越える力をもっているから成績はよくなる。能力の低い子どもにはなるべく不安を感じさせない方がよい。

それから、賞罰の与え方ということになるが、「褒め方しかりかたを上手にする。」ということも大切なことである。一般的には褒めるほうが学習意欲を上げることができるが、性格、能力、課題の難易度、性差によっても褒め方、叱り方を配慮しなければならない。その子にあった賞罰の与え方を考えることにより学習意欲だけでなく、記憶にも影響してくる。さらに褒めるときには、できるだけ広く褒める。「こういう計算ができたから、文章題もできるんじゃないか。国語だってできると思うよ。」など。そして、叱るときは、できるだけ狭くそのことだけを叱るということが大切である。

中・高校での学業不信はさかのぼっていくと、家庭での育て方が影響してきている。
「長所を見るというか、あるいは、何でもよくやったな。」と褒める家庭がある。反対に理想が高くて、何をやっても、不満足でだめだ」と言う家庭がある。不愉快な思いをすると家庭にかえっても教育の効果が出て来ないし、家庭環境、家庭のふんいきが子供の教育に影響する。したがって、学校だけがいくら努力しても家庭の協力がなければ教育の成果は上がらない。子供に応じた適切な褒め方叱り方をすることがやる気を起こさせるとともに、学習の効果、教育の効果を高める所以である。

競争させたりして外発的に動機付けたりすることも大事だが、そうしながら内発的動機付けを大切にして行きたい。外発的動機付けから内発的動機付けへ変えて行ければ自己教育力が育っていくということになる。

評価の基本的な方法として共感的理解が大切であり、よい面を見てあげる。努力を見てあげるということがたいせつである。

それから学習意欲の高め方ですが、まず、生存の欲求、生理的欲求、安全の欲求が保証され、愛情の欲求、所属の要求、自尊心、美的感情、秩序、知的探求心が満たされ、それらのうえに自己実現(自分の可能性を試す)がなされるということになる。

したがって、学級の経営にあたってそのような欲求を満たして、おおらかなゆったりとした気持ちの安定したなかで学習や勉強に向けることができる。今日、いじめとか生徒指導とかいうことが重要視されているが、このような人間の欲求を念頭において配慮してこそ教育の効果も学習意欲も上がるということになる。子供が生まれながらにしてもっているといわれる学習意欲を十分に伸ばすためには、こどもの感受性を尊重する自由な教育、すきなものを好きなときに好きな方法で学習させれば学習効果も高まるであろうとこういう主張がある。学習時間や内容を柔軟にし、課題も自ら選択して学習させる。「先生は指導するのではなく、後押しすればよい」という考え方が、これまでの日本の教育の短所の反省として出て来ているが、行き過ぎになると学習効果は上がらない。米・英・仏のいわゆる個性重視の教育をおこなってきた国、教育の原理にもとずいて教育をおこなってきた国々においては学力低下、基礎学力が低下したということで、それらの国々では教育の改革を日本の教育のように進めているが、我が国の教育改革とは逆の方向でもっときちんとした学習をさせようという方向で進められている。どちらも、時計の振り子のように行き過ぎたら困る訳でまた、基礎学力が低下するということになる。先生方が常にこのようなことを念頭におきながらも、基礎学力、基礎基本というものを定着させることに工夫していただければと思う。

では、子供がもっている内なる学習意欲を伸ばすにはどうしたらいいかという事であるが、子供のもっている知的好奇心に訴えるとか、やればできるという期待感に訴える事です。さらに内的帰属意識と言うか、つまりうまく成果が上がらなかったのは自分の努力が足りなかったというふうに仕向けることである。先生の教え方が悪いとか、ひとのせいにしていたのではだめで、自分の努力に沿って、競うというふうなところを工夫して行けば言い訳です。

さらに知能について固定的に捕らえるか、可変的であると捕らえるかによって、教育の期待感が変ってくるし、教育観のわかれめになる。かつて、知能はかわらないものという捕らえ方がなされて来たが、今日では家庭環境によっても教育によっても変るものであるというふうに変って来ている。「子供達の知能は「可変のものである」ということを前提に子供達の指導にあたっていただければと思う。子供自身も自分の能力が高いと認識をもてばさらに高いことに挑戦しようとするし、低いと「自分はやってもだめだ」ということなる。ところが、能力は可変的であると考える場合にはその能力自体を上げようと子供自身粘り強く努力し困難に挑戦する意欲が出てくる。個人の長所を生かすように、「お前こういうところに長所があるぞ」というふうに、長所を生かすようにするとやろうという意欲を持つようになる。ここが教育では一番大事な所ですね。先生方が子供にそういう期待感を子供に持てば子供もやる気が起きてくる。教師の期待効果が子供に反影する。さらに、親も子供に対して「家の子供はよくなるぞ」という期待感を持てば自然と努力してよくなる。だから期待というものはできるだけ前途を見据えて長所を見ながら目標を高く掲げてやることが必要である。ただしその反面、期待過剰になって重過ぎておしつぶされることもある。

だから一般的にいえば期待をもって努力させる。うまく行かない場合は本人の努力が不足したせいだとして、「もっと努力すればよくなるよ」と言いながら答案を返してあげる。絶えず先生がそういっておりますと、努力するようになる。

次に自己評価についてであるが、子供の自発的自主的活動を強調する立場から言えば、大事なことであるが、一般的にいえばまず子供の教育において、目標設定、しかも実現できると思う合理的な目標を設定させる。さらにその達成の為にどういうふうに実施して行ったら良いか。学習計画、自習の計画を立てる、それから自分の進歩を評価する。つまり、自分で監視して成功して行く。うまく行ったならば、自己評価をやりながら自ら自分に賞罰を与える。こうしていけば先生や親から言われるよりも自ら学習しようという意欲が高まるであろうという考えかたである。学校教育はそういう方向で進もうとしているわけであります。

4番目に評価というものは子供の学習能力を高めるであろうといわれているが、結局は先生方の役割に帰する所が大きい訳で、先生方の指導のやり方にかかっている。先生というのは非常に大きな役割を果たしている。ところが、「評価というものは役に立たない」とか、「教育的でない」といって、評価、テスト、問題作りをさけ、面倒だと教育的意味付けしてそれをやらない先生がいる。逆に評価に熱中し過ぎて、教えることよりも評価することに興味をもってしまう先生もいる。指導と評価の一体化と言われるが指導したうえでその評価をする。評価によって指導を改善する。さらにそれによって、子供の学習効果も高まってくる訳であるから、評価をあまり過大視過ぎてはだめな訳ですし形式すぎてもいけない、ということになる訳です。

評価にアメとムチを使う先生がいるが学習力を高めるというよりはむしろマイナスの効果というか、評価についていやだという印象を与える。

次に評価には一般的な誤りを伴う。評価はいつだれがやっても公平でなければならない。客観的でなければならない。自分の評価にたいして援護が可能でなければならない。

理由づけができなければならない。わけを説明できるようでなければならない。

特にこれから教育情報の開示とか言うとき、なぜ先生はこういう成績をつけたのか、といわれたとき、説明ができないと教師に対する信頼性が失われる。ハロー効果、中心化傾向、寛大な評価の誤り、厳格な評価誤り、評価基準の動揺、評点のインフレ化などの評価の誤りなどがあることも念頭におきながら評価をしないと信頼がなくなる。

沿　　革

平成６年

４月

１日　辞令交付式（南部広域行政組合教育委員会教育長より）

6　表敬訪問（県教育庁、那覇教育研究所、浦添教育研究所）

7　表敬訪問（宜野湾市教育研究所、沖縄市教育研究所）

11　表敬訪問（県立教育センター）

13　九州地区教育研究所連盟へ加入申込み

13　南部広域行政組合職員との初会合

14　開所あいさつ状の発送、ワープロ入荷（沖縄リコー社）

20　沖縄県教育研究所連盟へ加入申込み

21　島尻広域行政組合教育委員会開催、庶務（瀬底千春)着任

22　全県指導主事研修会（野原、上原参加）

５月

２日　表敬訪問（南部広域行政組合管理者上原宜成、副管理者金城義夫、議会議長屋宜由勝）

6　全国教育研究所連盟へ加入申込み

11　島尻定例校長会において所員あいさつ、及び募集について説明

16　第１回運営委員会

19　教育研究員の募集要項と島尻教育研究所の概要の送付

20　島尻教育事務所主催の指導主事研修会（研究員の募集について説明）

25　寄贈図書一覧表の作成（東風平中学校生徒６名の協力）

（６／10　11名）（６／13　８名）

６月

１日　教育総務課長（玉寄長市)以下２名の職員、総合福祉センター勤務

3　沖縄県教育研究所連盟総会（所長、野原、上原出席）

13　全国教育所連盟加盟機関あてに資料提供文書の発送

(約400研究所のうち250か所から資料提供あり）

15　要覧を島尻管内市町村教育委員会と各小中学校へ送付

17　教育研究員の応募締切り（市町村教育委員会締切り）

17　寄贈図書一覧表の作成(東風平小学校児童22名の協力）

（６／24　23名)(７／１　16名）

22　教育研究員の応募締切り（研究所締切り）

22　開所式における記念公演の依頼文書発送（宮城鷹夫氏）

24　所内大掃除

28　教育研究員入所内定

7月

4日　教育研究員の入所者決定（所長、教育長決裁）

5　コンピューター資料収集のため教育研究所訪問（玉寄、野原、上原）

7　県立教育センター前期研修成果報告会へ参加（野原、上原）

8　本年度教育研究員の決定（小学校教諭5名、中学校教諭1名）

11　平成6年度教育研究員の決定通知文書の発送

13　島尻教育長会にて教育研究員の決定について所長より報告

14　補正予算調整会議（事務局長、所長、教育総務課長、野原、上原）

15　補正予算調整会議（管理者、事務局長、所長、教育総務課長）

15　南部広域行政組合職員、南部振興会職員互助会総会

19　補正予算調整会議（管理者、副管理者、収入役、事務局長、所長、教育総務課長）

20　南部振興会（補正予算の検討のため所長参加）

20　島尻市町村会総会（補正予算承認される）

25　南部振興会会長へ表敬あいさつ（所長、上原）

26　浦添教育研究所へ資料収集（玉寄、上原）

27　研究員のしおり完成

8月

2日　島尻教育研究所特別会計監査（瀬底出席）

3　移動式書架の発注

3　研究用図書（400冊）教育用月刊誌(14冊)の発注

8　資料室用備品購入計画所の作成、研究室のレイアウトの検討

10　コンピューターの機種選定決定（ＯＣＣ社員来所）

16　研究員オリエンテーション開催、入所式案内、運営委員会開催の文書発送

23　指導講師依頼文書の発送

24　所長県教育庁へ訪問（来年度の教育研究員の定員について折衝）

24　研究図書整理のため臨時雇用員（高良和歌子）採用

26　コンピューターの設置（ＯＣＣ)、開所式について打ち合せ（所内会議）

9月

2日　雑誌書架と新聞書架の発注（文教図書）

3　移動式書架の設置（南部事務機）

6　研究所の整理、研究図書の整理

7　入所式、開所式、祝賀会の打ち合せ（所員、南部広域行政組合員、南部振興会職員）

8　第2回運営委員会、教育研究員オリエンテーション

20　指導講師連絡会

21　金城進氏（長嶺中学校教諭）より絵の貸与(4点)

26　開所式に向けて所内会議

28　開所式に向けて津嘉山清教育長と打ち合せ

10月

3日　平成6年度教育研究員入所式
　　島尻教育研究所開所式・祝賀会
4　所長講話
5　平成7年度について検討会（局長、所長、教育課長、指導主事）
7　講話（服務について)野原主事
8　全国教育所連盟研究協議会東京大会（野原主事出席）
9　指導講師指導（我那覇慎英先生）
14　指導講師指導（高良清吉先生、上原弘子先生、儀間朝善先生、安次嶺敏夫先生、与那嶺寿一先生）
18　所外研修（第1回コンピューター研修)於：ＯＣＣ本社
24　講和（郷土の文化について）上原主事
26　平成7年度教育研究員応募締切り

11月

4日　沖縄県教育研究所連盟研究発表会・講演会
9　所外研修、演奏会鑑賞（クイケンアンサンブル）於：佐敷町シュガーホール
16　教育講演会（応用教育研究所所長　辰野千壽氏）
17　平成7年度教育研究員決定（教育長決裁）
18　平成7年度教育研究員決定通知書送付
28　所外研修（第2回コンピューター研修）於：ＯＣＣ本社

12月

1日　所内研修（研究報告書のまとめ方について）野原、上原主事
2　所内研修（琉球古典舞踊実習）琉舞華の会　師範高嶺久枝氏
13　検証授業（小野寺清子先生・上田小学校）
14　指導講師講話（春風秋霜)安次嶺敏夫先生
19　検証授業（荷川取千賀子先生・北丘小学校）
　　庶務、仲地紀子さん着任
21　検証授業（諸見謝弘先生・米須小学校）
28　御用納め

平成7年

1月

4日　平成7年御用始め、教育研究員による書き初め
10　県教育庁へ新年の表敬訪問（局長、所長、教育総務課長、主事）
11　臨時職員の山城さやかさん着任
13　沖縄県指導主事研修大会へ野原、上原指導主事が参加
20　教育講演会（お茶の水女子大学教授　森隆夫先生）
24　検証授業（神村逸子先生・真壁小学校）
26　検証授業（野村朝昭先生・長嶺中学校）
30　指導講師指導（トロピカルテクノセンター、宇宙開発事業団沖縄追跡研究所）
31　指導講師講話（上原弘子先生、折りにふれて思うこと）

2月

1日　指導講師指導（研究収録のまとめ）

6　所内研修　講義（教育機器の活用）主事上原

8　南部広域行政組合教育委員会

指導講師講話（与那嶺寿一先生、希望と目標のある人生を）

14　宮古市町村教育委員会による研究所視察（伊良皆教育長他4名）

17　指導講師指導（研究集録のまとめ）

20　所内研修　講義（教育課程の編成）主事野原

22　研究報告書検討会

27　所内研修　講話（子供の可能性を信じて）所長宮城

3月

2日　平成7年度研究員オリエンテーションの文書発送

平成7年度研究員入所式の文書発送

6　所内研修　講義（スライド教材について）主事上原

南部広域行政組合議会（所長、教育総務課長出席）

9　平成6年度研究報告会

10　所内研修　実技（琉球古典舞踊）琉舞華の会　師範高嶺久枝氏

13　所内研修　講義　主事野原

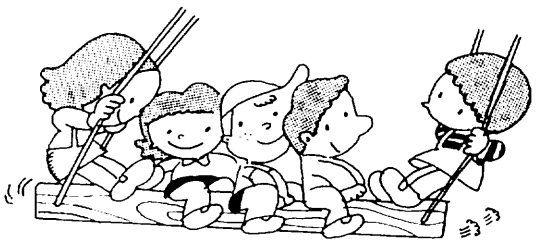
平成6年第3回運営委員会

14　指導講師講話（儀間朝善先生）

15　所外研修（沖縄少年院、沖縄女子学園、浦添市立美術館）

17　研修旅行（久米島）1泊2日

20　平成6年度修了式　南部広域行政組合4役との懇親会

22　平成7年度教育研究員のオリエンテーション

31　平成6年度教育研究修了